

名古屋港管理組合
管理者 大村秀章様

2016年5月19日
日本共産党名古屋市議員団
団長 田口一登

サミット警備の自衛隊艦船の名古屋港入港に関する緊急申し入れ

5月26、27日に開催される伊勢志摩サミットの警備にあたりとされる海上自衛隊のヘリ空母「いずも」(排水量 19,500 トン、全長 248m、乗員約 520 名)をはじめとする7隻の艦船が5月23日から25日の三日間、名古屋港に入港し、金城ふ頭(85番、84番、83番岸壁)に接岸することが明らかになった。入港目的はサミット警備に向けての物資補給のためと言われている。

サミットにおけるテロ対策や要人警護は、基本的に警察や海上保安庁の任務である。サミット警備の名でのヘリ空母を含む7隻もの自衛隊艦船の出動はあまりに過剰だと指摘せざるを得ない。

数日間の伊勢湾内の任務のために、わざわざ名古屋港に三日も停泊し物資を補給するような必要性があるとは思えず、ヘリ空母による名古屋港の利用実績づくりが真の目的ではないかとの疑いが拭いきれない。同様に「いずも」へのオスプレイ飛来の可能性についても警戒しなければならない。

自衛隊艦船の名古屋港入港について、私たちは港の軍事利用につながるものとして、これまでも厳しく抗議してきた。サミット警備が目的とはいえ、今回の自衛艦の名古屋港入港も港湾の軍事利用につながるものであり容認するわけにはいかない。

日本国憲法をないがしろにして安保法制を強行し、自衛隊の任務拡大をすすめる安倍政権のもとで、戦争できる国づくりへとつながりかねない危険な動きを見過ごすことはできない。

よって以下の点を申し入れる。

1. 自衛隊艦船の名古屋港入港を拒否すること。
2. 自衛隊艦船に関する情報を特別扱いせず、他の入港船舶と同様に公開すること。
3. 日本国憲法を厳守し、憲法9条をあらゆる港湾行政に貫き活かすこと。